

# 安全大会報誌

安衛委 No124  
平成24年4月27日  
安全衛生推進委員会

## 平成二十四年度 安全大会

今年の安全大会は、四月二十日大越公民館で、開催されました。

社長より、東日本大震災から一年が過ぎ、官民一体となつて復旧復興に力を注いでいるため、徐々に回復基調にあります。また、がれき処理問題が山積みし手につかないなど、険しい部分もあります。東日本大震災の復旧・復興に関する労働災害で、四七八件のうち建設業が三八二件と八〇%を占めており、建設業の中で最も多いのが墜落・転落災害一七八件、飛来落下四〇件、はさまれ巻き込まれ三九件と続いており、低層階からの災害が目立っており、足場の不備転落防止対策の不備、安全帯の不備などによる安易的に登つての転落墜落災害となっています。企業経営は、安全第一をもつとうに労働災害の壊滅に向け労使協力



し、安全なそして安心の職場づくりに努力していかねばなりません。安全衛生推進委員会に毎月安全パトロールを強化し、災害撲滅していくと挨拶がありました。続きまして、勤続表彰で、国分雄浩さん、橋本孝行さん、久保田芳子さんが三十年と永年に渡り会社に貢献して頂きました。安全標語

は、四八人から八六人の応募があり最優秀賞に佐藤功亘さんの「たぶん・だろう」は事故のもと確認でその中でも、大阪万博の地下鉄工事忘れず安全作業、優秀賞に桑原英を覆工板につり下げていたのが外れ子さんの「きれいな現場を心掛けてガス漏れし、作業員十七人は全員スムーズな作業でゼロ災害」、佳作に遠藤紀夫さんの「迷いません安全への道は日々点検」が選ばれ受賞しました。無事故無違反表彰では、石井輝子さん四十年、大河原勲さん三十年、鈴木与市さん、安瀬勝則さん、遠藤長男さんが十年で受賞しました。

現場体験談では、安瀬勝則さんが少人数で作業することにより、一人作業が多くなり周囲への注意力減ってしまうことや、同じ作業での集中力も減り事故の要因になることや、慣れることは大事なことなのだが、慣れすぎることによって注意力と集中力が不足して事故になることもあるので注意して頂きたいと話して頂きました。事例としてバックホウのバケット交換時の事を話してくれました。講演では、建設業労働災害防止協会福島支部理事遠藤秀治様に「ヒューマンエラーと企業の社会的責任」について講演を頂きました。ヒューマンエラーは昔からあり、

二十世紀には何万件と事故があった中でも、大阪万博の地下鉄工事でのガス爆発では、ガス管三百ミリを覆工板につり下げていたのが外れ、作業員十七人は全員死亡、四二〇人重傷という大惨事が起きた。

安全の先取りが一番大事で、リスクを減らせば災害も小さくて済むので、ヒューマンエラーを無くすこと。企業は人なりで、安全管理、品質管理、工程管理、原価管理、環境管理の企業は、利益の追求だけを求めてはだめで、利益を追求すると共に、社人的利益、環境的利便を生んでいかねば、社会から消滅させられてしまう。(東電の事故を例とした)現場での事故は、確認をしないから起こるので、確認を忘れずに行うようにすること。個人的な思い入れが強い入力が強くなつてきたら危険信号です。等話をしてくれました。

